

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.14) 2007.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

緒言

川崎富作

残暑お見舞い申し上げます。

夏は暑いと知り乍ら、「今年は格別に暑い」と愚痴る毎日です。皆様如何お過ごしですか。

さて、この度は新しい川崎病の病因追求の有力なグループをご紹介しますと思います。川崎病の病因にあげられて来たウイルス、細菌、リケッチア、等いろいろありますが、従来の一般的な方法では“駄目”ということがわかって来ました。最近、国立感染症研究所ウイルス第一部の水谷哲也博士のグループが当センターの平成 19 年度の共同研究費交付申請書に書類を提出されました。水谷博士は「川崎病の原因に迫る」と題してこのニュースレターにも投稿して下さいましたので是非皆様お読みになって下さい。

水谷博士によりますと迅速に簡単に網羅的にウイルスの遺伝子配列の情報を得る方法 (RDV 法) を開発し、動物から既知・未知のウイルス遺伝子の配列を得ることに成功したそうです。私達小児科医は長年突発性発疹という不思議な乳児の病気 (3 日間高熱が出て、下熱と同時に全身に発疹が出現して治る) の原因に興味をもって来ましたところ近年ヘルペスウイルスの一種 HHV6 が原因と判明しました。私はそれまではヘルペスウイルス群の多くは臨床的に水泡形成が主と考えていましたが突発性発疹の

HHV6 から川崎病の病因に未知のヘルペスウイルスが引き金役を演じている可能性があるかと推定して、水谷博士にお話をしたところ、動物から既知・未知のウイルス遺伝子の配列を得ることに成功した実績から、その RDV 法を川崎病に応用して川崎病の未知なる病原体を追求しようというものです。ただ、川崎病では手足の落屑という特徴的な症状があって、これは猩紅熱に代表される細菌毒素によるものなので、今までのウイルス感染症にはない症状ですが、水谷グループの挑戦で今までの常識を破る結果を大いに期待したいと思います。

さて、去る 6 月 9 日恩師神前章雄先生が満 100 歳の長寿を閉じられました。先生は 1967 年の原著の共著者名をきっぱり辞退されたり、1970 年先生のアドバイスで厚生省研究班が発足し、初代の厚生省川崎病研究班班長として疫学との共同研究により、本症が新しい血管炎症候群としての今日の川崎病の概念の確立の切っ掛けを作して下さいました。ここに先生の毀誉褒貶にとらわれない科学者魂に深い敬意を表し心からご冥福をお祈り致します。合掌

(当センター理事長)

ニュースレターNo.14 をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せください。

「川崎病の原因に迫る」

水谷哲也

川崎病の原因は残念ですがわかっていません。多くの医師や研究者が考えているように、川崎病はウイルスなどの病原微生物による感染症なのでしょう。幾つかのウイルスや細菌が候補に上がりましたが、結論は未だ出ておりません。現在、国立感染症研究所では田口文広先生がコロナウイルスの可能性を精力的に追求されております。小児の遺伝学的・免疫学的要因は無関係ではないでしょうが、引き金となる「もの（微生物の感染や化学物質など）」は必ず存在すると考えられます。

近年ほぼ2年おきに、今までに知られていなかったウイルスによる感染症や、過去に流行していたウイルスが再び流行するといった現象が見られます。たとえば、SARS ウイルスは前者、西ナイルウイルスは後者にあたります。これらを新興・再興感染症と言いますが、未知のウイルス感染症ではそのウイルスの情報が全く無い状態で流行していますので、最初はウイルスが原因であることすらわかりません。ウイルスの特徴がわかると、治療・診断・予防などに迅速な対応が可能になりますので、原因ウイルスの特定は急務です。ウイルスであるか否かは、電子顕微鏡を使うと判明することがあります。例外もありますが、多くのウイルスは大きさが決まっていますし形を見ればウイルス種を特定することも可能です。SARS ウイルスの発見も電子顕微鏡写真が決め手となりました。このウイルスは王冠（太陽のコロナ）の形が特徴的だからです。しかし、治療や予防、特に診断のためにはウイルスの遺伝子配列の情報が欠かせません。今までに知られているウイルスの遺伝子の配列は GenBank というところから引き出すことができます。一方、知られていないウイルス

の遺伝子配列は、ウイルスを含む血液などから遺伝子を精製するところから始まり、最終的に配列が決定されるまでに長い時間を要します。そこで、私たちは、できるだけ迅速に・簡単に・網羅的にウイルスの遺伝子配列の情報を得る方法を開発しました。実際には2日間で完了します。この方法を Rapid Determination System of Virus Sequences (RDV 法)と名付けました。RDV 法を使って、大学等の先生方との共同研究で動物から既知・未知のウイルス遺伝子の配列を得ることに成功しております。この方法は開発の段階から、川崎病に応用できるのではないかと考えていました。

先日、川崎富作先生からお話をうかがう機会に恵まれました。先生は、川崎病の原因の候補のひとつとして、今までに知られていないヘルペスウイルスを想定していらっしゃいました。私たちの体には幾つかのヘルペスウイルスが潜伏感染しています。また、赤ん坊のときに誰でも罹患するウイルス感染症は突発性発疹ですが、これはヘルペスウイルス6型が原因であることも最近わかりました。まだ知られていないヘルペスウイルスが存在して川崎病を起こす原因になっているかもしれない、という先生のお考えには深く共感いたしました。

RDV 法を用いればあらゆる原因不明のウイルス性疾患が明らかになるというわけではありません。検出感度の問題など改良しなければならない点は多くありますが、現時点でのベストの方法で臨むことも重要ではないでしょうか。RDV 法を生命科学分野における最先端の技術と組み合わせることにより、川崎病の原因解明に迫ろうと考えています。(国立感染症研究所ウイルス第1部主任研究官)



神前先生 100 歳を目前のスナップ。大好きなビールをグイッと。
 (左より川崎、神前、井口先生)



100 歳のお誕生日に。(2006.09.27)

「^{こうききみお}神前章雄先生のこと」

那須 武

平成 19 年 6 月 9 日、神前先生が 100 歳 8 ヶ月で鬼籍に入られた。川崎先生は、神前先生を日赤時代の恩師であることを折にふれて語ったり、書いたりしています。川崎先生から直接昔のことなどをお聞きすると、川崎病の発見、論文作成、疫学調査等、神前先生のバックアップが大きな力となっているように感じられます。

私は、昭和 48 年から約 1 年と 2 ヶ月の間、日赤医療センター小児科にお世話になりました。丁度新しく日赤医療センター(日赤中央病院と日赤産院を統合)小児科となり、川崎先生が神前部長の後任として就任まもなくのことです。短期間の在職でしたが、豊富な臨床経験はその後の小児科医としての基礎となって現在に至っています。またその後も、「三金会」毎月第三金曜日の日赤小児科の勉強会—に参加させていただき小児科医としてのモチベーションを保持させてもらっています。

神前先生が在職中に提案された「三金会」は、

現在の医局員ばかりでなく、日赤で働いた諸先輩も加わり、症例検討会や、講師を招いて up-to-date な演題を提供する勉強会で、現在も継続されて続いています。延べ開催数は 280 回(平成 19 年 7 月現在)にもなるようです。神前先生は退職された後も、この「三金会」にはほぼ毎回出席されて、私は直接のお教えは受けなかったのですが、この会を通じて親しくさせていただき、小児科の先輩としての知恵を教授してもらいました。神前先生の弟子が川崎先生ですから、私はその弟子に当たるので孫弟子といつてよいと考えます。ご冥福をお祈り申し上げます。

(なす小児科医院院長・千葉県船橋市)

毎年、井口正美君と那須武君と私の 3 人は先生のお誕生日またはその前後にバースデーケーキを持って先生の生活しておられた「やすらぎの園」(有料老人ホーム)を訪問し、ご家族と共に祝いするのが楽しみでした。いつも那須君が用意した 135cc のビール缶をおいしそうに飲まれるのを見て、われわれは先生の健在を確認するのでした。 (川崎富作当センター理事長)

事務局から

【センター日報】

- 平成 19 年 4 月 27 日 平成 19 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～（於:当センター）
平成 19 年 6 月 9 日 平成 19 年度第 2 回理事会開催 12:30pm～（於:東京 YWCA）
平成 19 年 6 月 9 日 平成 19 年度総会と研究報告会および懇親会開催（於:東京 YWCA）1:00pm
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。
平成 19 年 10 月 19 日 平成 19 年度（財）生存科学研究所川崎病研究会・平成 19 年度第 3 回
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター理事会合同会議開催予定（於:生存科学研究所）
平成 20 年 3 月 7 日 平成 19 年度第 4 回理事会開催予定

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数 284】平成 19 年 7 月末現在
[正会員：109 名、3 法人、4 任意団体]：[賛助会員：163 名、4 法人、1 任意団体]

【研究会・講演会】

- ★ 第 8 回北海道川崎病研究会 平成 19 年 9 月 8 日（土）於:札幌市
代表世話人:濱田勇先生（札幌医師会夜間救急センター）
- ★ 第 27 回日本川崎病研究会 平成 19 年 10 月 11-12 日（木・金）於:品川プリンスホテル
会長:佐治勉先生（東邦大学医学部小児科）
- ★ 第 20 回関東川崎病研究会 平成 19 年 12 月 1 日（土）15:00～ 於:日赤医療センター
代表世話人:今田義夫先生（日赤医療センター小児科）
- ★ 第 32 回近畿川崎病研究会 平成 20 年 3 月 1 日（土）13:00～ 於:テイジンホール
会長:中川雅生先生（大阪市立総合医療センター）
- ★ 第 28 回東海川崎病研究会 平成 20 年 6 月 14 日（土）14:00～ 於:愛知県医師会館
地下 1 階「健康教育講堂」 当番世話人:柴田元博先生（社会保険中京病院小児科）
- ★ 第 9 回国際川崎病シンポジウム 平成 20 年 4 月 10～13 日 於: Taipei, Taiwan
問い合わせ先：日本川崎病研究センター Tel:03-5256-1121, Fax:03-5256-1124
- ★ 「川崎病の子供を持つ親の会」問い合わせ先： Tel:044-977-8451 浅井 満

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話、お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。月曜日～金曜日(木曜日を除く)：午後 2 時～午後 4 時

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター
〒101-041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.1) 2001.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター